

和泉そぞろ

Izumi sozoro

⑥山千代兄弟の碑

日露戦争で戦没した山千代兄弟の顕彰碑です。東宮御学問所で裕仁皇太子（のちの昭和天皇）に帝王学などを教えた思想家・杉浦重剛が揮筆しています。



⑦中央寺跡

中央寺の寺伝によると、かつてこの地には中尾寺がありましたが荒廃し、それを元禄3年（1691）に黄檗三傑のひとり・慧極道明禅師（1632～1721）が再興したといいます。しかし明治10年（1877）、維新の動乱で世の中が混乱した時に付近に強盗が出たので寺は小栗街道沿い（王子町三丁目）に移転しました。現在、中央寺靈園があり、靈園内には歴代住職の墓があります。

⑧聖神社参道

急な坂道ですが聖神社の秋祭りでは、この急な坂道をだんじりが駆け上ってきます。祭のハイライトのひとつです。

⑨聖神社

和泉国和泉郡の式内社で和泉国三宮です。現在の社殿は豊臣秀頼が片桐且元を奉行として再建したもので本社本殿や末社本殿が重要文化財に指定されています。境内にはいくつか古墳も発見されていて古くから神域であったと思われます。古墳の中に大熊、小熊という土蜘蛛が住んでいて付近の人々を悩ましたという伝承があります。

⑩惣ヶ池遺跡

鶴山台団地の造成時に弥生時代の終わり頃（約1900年前）の高地性集落跡「惣ヶ池遺跡」が発見されました。同時期に「池上曾根遺跡」や「観音寺山遺跡」も都市開発にともなって破壊される危機に直面しており、地元住民や市民団体が「和泉三大弥生遺跡を守る実行委員会」を結成して保存運動を展開し、遺跡保存が決定されました。その後、令和3年（2021）の発掘調査で弥生時代の「青銅鏡」が見つかりました。小形仿製鏡と呼ばれるもので中国（前漢時代）でつくられた青銅鏡を真似して国内でつくられたものです。近畿地方で見つかった同種の青銅鏡としては最古級で泉州地域唯一の出土例です。

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いづみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和5年（2023）3月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用してください。

信太山界隈は古代、信太首（しのだのおびと）という渡来系氏族が住みついたといいます。彼らは大陸由来の天文学に通じていて「日知り（聖）」の一族であったという説があります。また我が国最高の陰陽師・安倍晴明の母で「白狐だった」という伝説を持つ「葛の葉」ゆかりの地を歩きます。



①バス停「鶴山台センター」

かつて当地には「鶴の山」があったといいます。山の頂に一本松が生えて、そこに鶴がやってきて巣を作ったのが命名の由来とか。また毎年、1月11日夜には狐の穴に油揚げなどを供えする「野撒講」が行われていましたが、昭和46年（1971）、鶴山台団地の開発によって消滅しました。

②姫塚古墳

信太山丘陵には百基ほどの古墳が確認され、「信太千塚古墳群」と呼ばれます。昭和37年（1962）に惣ヶ池南側の浄水場建設工事の際に発見されたのが姫塚古墳で、直径25mの円墳で横穴式石室が確認されました。箱式石棺の石材は和歌山の紀ノ川南側で産出される変成岩が用いられ、和泉まで運ばれたと考えられています。副葬品として金銀の耳飾り・管玉・琥珀玉・鉄刀、約20点の須恵器などが出土し、6世紀後半頃（古墳時代後期）築造と予想されています。調査後、和泉市役所敷地内に移築ましたが、その後、当地に再移築されました。

③鏡池

式内社・聖神社の北側にあり、かつては「手洗池」と呼ばれ、宗教儀礼の場であったと思われます。葛の葉伝説では安倍保名（安倍晴明の父）が白狐・葛の葉を助けた場所で、その後、白狐は水面に姿を映して絶世の美女に変化したことから「鏡池」と呼ばれるようになったといいます。

④ネズミ坂

伝説では葛の葉がネズミに化けて狹師から逃げてきたといいます。聖神社の参道でしたが残念ながら現在は閉鎖されています。

⑤信太の森ふるさと館

葛の葉伝説や信太山丘陵、和泉の史跡、名所、遺跡などに関する資料展示を行っています。入館料無料。

※お問い合わせ：0725-45-0605（電話）

プロデュース | 陸奥賢 [観光家 / 大阪まち歩き大学学長]
コーディネーター | 宝楽陸寛 [NPO 法人 SEIN / コミュニティ Lab 所長]
イラスト & マップ制作 | もんちほし（青木真知子）
協力 | いづみ市民大学観光おもてなし学科受講生
(長江俊行 / むらかみあきら / 石野忠生 / 源和代 / next.g)